

## 2011年以降の東京の病者・死者についての個人的な報告

Megumi.H

■今年 9 月まで東京に住んでいた私の周囲でみた病者と死者の急増は、明らかに原発事故の影響がないとは言わせていけない状況だと思っています。チェルノブイリ原発事故の後、5 年目以降に病者が続出したという話が、実感として東京でもすでに起こっていると思っています。以下が私の知り合い・友人の震災以降特にここ 2 年ほどで起こっていることの報告です。被曝の影響だと全てを断定することはできませんが、可能性がある限り、この状況が何を意味しているのか、多くの人と考えていきたいと思っています。

- ・脳腫瘍 (30 代男性)
- ・脳梗塞 (40 代男性、40 代男性、60 代男性、60 代男性)
- ・脳出血 (30 代男性、死亡)
- ・突然死 (50 代女性、前のバイト先の女性)
- ・心臓の疾患 (50 代男性、30 代男性)
- ・友人の同級生→甲状腺摘出 (20 代女性)
- ・癌 (30 代男性大腸・死亡、50 代女性大腸、50 代男性・死亡、50 代男性、30 代女性胃、60 代男性、40 代男性膵臓・死亡)
- ・甲状腺異常 (20 代女性、前のバイト先のアルバイト)
- ・免疫力低下による抗酸菌症 (30 代男性)
- ・友人の友人→子宮筋腫 (20 代女性)

他にも友人から、身近な人の白血病の話や 2 件、友人の行きつけの美容院の美容師が 30 代で癌死、私自身の同級生である 29 歳の女性は甲状腺が腫れて、九州にすでに移住したり、40 代友人の手足口病、帯状疱疹など、数えきれないほどの病いが身近にあります。

全て東京のはなしです。

■私は今ニュージーランドに、ワーキングホリデーの制度を使って今年の 9 月から来ています。東京で、関東の被曝問題を共有するための会を開いたり、韓国のソウルで友人が企画してくれた会で、自分の実感から被曝問題を話したり、自分自身のこととして、危機感を持って脱被曝を考えてきました。Go West の集会に参加しに大阪に来たこともあります。

表でわかるように、やはりここ数年の周辺の知人・友人たちの病気と死の連鎖に、このままだと自分も殺されてしまうのではと感じ、汚染地帯の東京で頑張るよりも、自分がまず生き残らなければいけないと思い、友人も住んでいるニュージーランドに来ました。東京にいた時は、毎回の食に対するストレスや被曝の話の難しさで精神的にも身体的にも疲れがピークに達していました。

いまは核のないニュージーランドに来て本当に良かったと感じています。人も暖かく自然が壮大で、心と体が満たされています。お金を使わなくてもどうにかいきていけるシステムが充実してるニュージーランドでは、2 時間ちょっと働けば宿代が無料になるワーク・エクスチェンジというシステムや、有機農家の手伝いをして宿とご飯を提供してもらう wwoof ウーフというシステムがあり、こういったシステムを活用しながらお金をあまり使わないで過ごさせています。全て金に換算する資本主義社会のなかで「自己責任」を押し付ける日本とは比べものにならないな…と感動しています。もちろんこちらにも問題は色々あるのですが。

ニュージーランドで会う日本の 20 代と話しているとまた日本の闇の側面が見えて来ます。彼・彼女らは過労死を強要する働き過ぎの社会から命からがら逃げて来たような人が多いです。同僚が過労で自殺したとか、モラハラで心が死んで、やっとな職場を辞めてやって来た人など。➤

日本社会の過労のシステム、我慢することを美德とする空気に組み込まれ社会で何が起きているかを考える力を奪われています。被曝問題を語ることはこの同調圧力社会から脱出してまたさらに一歩先のことなので、若者を過労死社会・我慢を強要する社会から脱出することを助けたり、逃げ場を確保することも同時に重要なことなのではないかと思っています。あらゆる集会やデモに若者がいない問題も、根っこは強烈な同調圧力と全体主義的な教育の中で育ったことの結果だと思っています。こんな酷い状況になってまで被曝問題を口にできない、話題にできないことの根が本当に深いことを、ニュージーに来て実感しています。

日本社会に生きるということは、幾重にも重なった困難の中をくぐり抜けて生き残らなければいけない、サバイバルなのだと感じます。

若い世代含め多くの日本に住む人々がこの複合的な人殺し状況から逃げるために、助け合うことができたらいのですが。

こちらで英語をしっかりと学んで、脱被曝の日本の活動を英語圏に伝えることができたらと思います。繋がっていきましょう。

## これが東日本の放射能汚染によせて

だめ連 ペペ長谷川

・私のまわりで～恵さんと私の交友関係は重なるところが大きいので、それ以外の私の知人、友人から一人先、という範囲でつけ加えると、1 年前の春に 1～2 ヶ月の間で 40 代がん死、60 代男性急死、40 代男性急死、40 代女性急死、50 代男性急死、そのしばらく後に知人の酒場で 60 代男性急死 2 名。この頃は 4 年後あたりから健康被害急増という説を聞いていたので、そのこととも符合する感じで、本当に驚いた。他にも、メモしていろいろ思い出していましたが、いろいろあるなあ。福島からの友人からの話とかも。フツと聞いて忘れてること…。友人の母 60 代がん死 (昨年) すみませんとりあえずこの辺で。

・福島原発事故による健康被害者の会 (故松平耕一さん等) でも、このような身のまわりであったこと、聞いた話を記録していった方がよいのでは、という意見が出ていた (少し行われた)。記憶が曖昧化するスピードは結構はやいものだとつくづく思います。

・だめ連

友人等のがん死、だめ連ラジオは追悼ばかりしている感じです。～第 22 回松平耕一さん

・放射能、被曝被害の話が出ない、しにくい問題、集まりの度に、話しのできる関係、場所、企画等が必要ですね、と確認されます。ほっとくと必ず飲み込まれてしまうということだと思っています。今日の集まりも、それを許さないためのものですね。こういう流れを、よりよく、より強いものにしていかなければならないのでしょうか。まわりの仲間達の死は、そのことを私達に促している。そのように感じています。

## Go West, Come West!!!

### 3.11 東北・関東 放射能汚染からの避難者と仲間たち 規約

第1条（名称）

Go West, Come West!!! 3.11 東北・関東 放射能汚染からの避難者と仲間たち

第2条（目的）

2011年に発生した福島第一原発事故に伴う放射能汚染からの避難者および避難希望者への支援を行う。

第3条（会員）

上記目的に賛同する個人・団体で構成する。

第4条（所在地）

事務局を以下のところに置く

〒567-0815 大阪府茨木市竹橋町2丁目2-205

第5条（役員）

・代表者 園良太

・会計 石津望

第6条（設立年月日）

本会の設立年月日は2017年12月17日とする。

第7条（規約施行日）

上記規約は2017年12月17日をもって施行する。

上記記載内容は、上記の通り相違ないことを証明いたします。

大阪府茨木市竹橋町2丁目2-205

代表

## いつも何度でも

作詞：覚和歌子（かくわかこ）

呼んでいる 胸のどこか奥で

いつも心踊る 夢を見たい

悲しみは 数えきれないけれど

その向こうできっと あなたに会える

繰り返すあやまちの そのたびひとは

ただ青い空の 青さを知る

果てしなく 道は続いて見えるけれど

この両手は 光を抱ける

さよならのときの 静かな胸

ゼロになるからだ が 耳をすませる

生きている不思議 死んでいく不思議

花も風も街も みんなおなじ

ララララララララ・・・

ホホホホルルルル・・・

呼んでいる 胸のどこか奥で

いつも何度でも 夢を描こう

悲しみの数を 言い尽くすより

同じくちびるで そっとうたおう

閉じていく思い出の そのなかにいつも

忘れたくない ささやきを聞く

こなごなに砕かれた 鏡の上にも

新しい景色が 映される

はじまりの朝の 静かな窓

ゼロになるからだ 充たされてゆけ

海の彼方には もう探さない

輝くものは いつもここに

わたしのなかに 見つけられたから

## 12.17 集会決議文

私たちは3.11福島原発事故による関東、東北からの避難・移住者です。主に関西など西日本への避難者が集まっています。原発事故の放射能被害は福島に留まらず、関東や東北全体に及んでいます。放射能を遮る山がない関東平野全域や東北各所でも、放射線管理区域並みの土壤汚染になっています。

水道水も非常に汚染されています。子どもの甲状腺がんが東日本各県でも見つかリ、がん、白血病、心筋梗塞など様々な重い被害が増えています。免疫力の低下でかぜや持病の悪化も深刻です。福島と東日本の放射能被害は一つながりのものです。そのため福島県を始め、東日本全域からも多くの人に関西や全国へ避難しています。

しかし国は避難地域を次々解除し、福島からの避難者すら切り捨て続けています。そのためその他の東日本から避難する必要や避難者の存在など、東日本でも避難した先でも「ありえない」と思われています。その結果私たちは避難先で孤立や貧困を強いられており、それにより東日本へ戻らざるをえなくなった人も多数います。

また汚染された巨大な東日本に約5500万人もの人々が残り続けているため、体調が悪化したり、病に倒れる友人知人が続出し始めました。

被ばくの被害は広島・長崎の原爆で証明されています。またチェルノブイリ原発事故でも重大な健康被害は事故5～6年目から激増し、数万、数十万人もの命が奪われました。それより圧倒的に人口の多い東日本全体でも、その時が来たのであり、もはや一刻の猶予もありません。東日本からも避難・移住者を増やし、つながることが、命を守るための最良の手段です。

そして国が福島での被害を隠し住民を見殺しにすることに対しても、被害者と被害地域が「東日本全体だ」という認識を隠せないほど拡大させることが、最大の対抗策になります。

そのために私たち東日本全域の避難者も集まりを作り、福島からの避難者ともつながりながら、以下のことに取り組んでいきます。

- 東日本からの避難者がつながって、助け合うこと。
- 「東日本は広く放射能汚染地帯であり、避難が必要になってくる」と現地や避難先へ広めること。
- 新たな避難希望者とつながり、地域・仕事・住宅を紹介していくこと。それがなければ作ること。
- その全ての費用を日本政府・東京電力・国際原子力勢力に払わせ、事故の責任を取らせ、全ての核・原発を廃止させること。

私たちは関西で定期的に集まっています。避難者のみなさん、ぜひご参加下さい。そして避難移住を考えている東日本の皆さん、ぜひ連絡をして下さい、協力します。またこの大きな取り組みは私たち避難当事者だけでは不可能です。関西など避難先の心ある個人の方、お店、市民団体、労働組合、行政などの協力が不可欠です。そのために本集会を開催し、移住支援運動を始めることにしました。

日本政府は「東日本には日本の首都圏・東京があり、そこも汚染され避難が必要だなどと認めたら、国家と経済が破たんする」と思っています。多くの人も今はまだ普通に暮らしています。しかし命に優るものはありません。3.11 原発事故は国家と経済を何よりも優先してきた結果であり、事故後もその維持のために避難をさせないなど本末転倒です。

私たちは避難移住を成し遂げることで、それを支えることで、誰もが安全な場所で人間らしく楽しく生きていけるようにしましょう。そして命が最優先される新しい世の中にしていきましょう。全ての避難者にはそうした可能性があります。一緒に歩いて行きましょう!

2017年12月17日

「Go West, Come West!!! 3.11 東北・関東 放射能汚染からの避難者と仲間たち」（略称：Go West）」一同